



# 松庵だより

第708号 6月号  
令和6年5月31日  
杉並区立松庵小学校



## 「伸びゆく子供たち」

校長 戸口 満

子供たちの元気なあいさつの声が、毎朝、東門に響いています。5月末まで、代表委員の提案で、あいさつ隊が行われました。今年は、各クラスボランティアの日も設定され、学校全体に広がりをもせた活動になりました。取り組みを提案し、中心となり活躍しているのが高学年、6年生の子供たちです。新年度が始まってからのこの短期間で、最高学年としての意識も高く、いろいろな場面で活躍しているエピソードが届いてきます。中でも、朝の準備や掃除の手伝いをきっかけに関わりが始まった、入学間もない1年生への行動には、目を見張るものがあります。休み時間に校庭で長縄の跳び方を教えてあげたり、走り回ったりして過ごしている姿を見かけます。少しでも小学校生活の楽しさを実感してもらいたいお兄さん、お姉さんとしての心温まる行動に逞しさを感じます。

先月、学校公開の日のことでした。初めての6日連続の学校、それも土曜日でもあり、目を赤くはらせながら登校する一年生がいました。その子の手を取り、不安を取り除いてあげようと励ましながら、登校する複数の6年生の姿がありました。偶然、その様子を見ていた地域の方からも素敵な行動だとお話をいただきました。

その他にも困りごとがあれば、いつでも気持ちよく進んで助け合える、そして学校を良くしていこうとする前向きな姿があります。この3月、卒業生を送るときに、「松庵小の伝統を引き継ぎ…」と宣言した言葉通りに、バトンをしっかりと握りしめて走り出しています。頼りがいのある心強きリーダーとしてこの一年さらに大きな歴史を刻み、続いていく下学年の憧れとなる足跡を残していくことを願っています。

### 「個別最適な学び」におけるICTの役割

文科省のGIGAスクール構想を受け、一人一台の端末が整備されてから4年が経ちました。いよいよ子供たちは、ICTを文房具のように自然に使いこなし始めているようです。

ある日の帰りの会で、私の学級の児童が手を挙げてこのような発言しました。

「劇係から連絡です。手作りの紙芝居の動画をみんなに送ったので、時間がある時に見てください。」

またある授業では、別の児童にこんなお願いをされました。

「総合の時間の発表原稿をタブレットで書いてきたので、班の人数分印刷してほしいです。」

データというデジタルの世界と、紙というアナログの世界を、4年生の子供たちが見事に使い分けられている様子に感心しました。児童のICTを活用する力は確実に高まっています。

一方、端末を使用する時間が増えたことで生じる問題にも目を向けなければいけません。とりわけ、「情報モラル」の定着が喫緊の課題です。自分と友達の個人情報を守ることや、相手の気持ちを十分想像してから情報を送ることは、何度も繰り返し指導していく必要があります。松庵小では、今年度も朝15分間の「ICTタイム」を定期的実施し、情報モラルについて計画的に指導する予定です。

急速に発達する情報化社会の中で、ICTを適切に活用する力を伸ばしていくことも、学校教育の重要な使命であると考えています。今後ともご家庭での充電や管理など、ご協力のほどよろしく願いいたします。

GIGA部主任 竹原 弘樹

7月号より、学校だよりをtetoruで配信いたします。安全管理上、児童の下校時刻を授業時数表記に変更いたします。時程表を再度配布いたしますので、日々の下校時刻はご家庭で確認してください。